情報処理学会論文誌 Vol.55 No.9 1945 (Sep. 2014)

特集「新しいリスクに対応するコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

小川 隆一[1,a)]

IT セキュリティに対する脅威は厳しさを増し，洗練され，ターゲットに特化した攻撃が次々と発生している．サイバー攻撃をしかける側はプロ化・分業化し，新しい機器やサービスの脆弱性をつねに探し，ビジネスになる，あるいは政治的に有効と判断すれば執拗に攻撃をしかけてくる．さらに近年，制御システムや IoT（Internet of Things）などの社会基盤の IT 化，それにともなうビッグデータ分析が注目されているが，これらが攻撃の対象になった場合，大規模な情報流出・サービス停止等の深刻な被害が発生する懸念がある．

そこで本特集号は，上記のような新しいリスクに対応し，攻撃に強い安全な社会基盤を構築するためのコンピュータセキュリティ技術を重点テーマとして，基礎理論・技術，プロトコル・アーキテクチャ，ソフトウェア・アプリケーション，実装・運用，社会学的な考察等を含め，広範囲な研究論文を掲載することを目的とした．

募集に際してはコンピュータセキュリティ（CSEC）研究会が主催するシンポジウム（CSS2013），および合同開催のマルウェア対策研究人材育成ワークショップ（MWS2013）を中心に投稿を呼びかけ，42 件の投稿があり，最終的に 21 件が採録された．カテゴリ別では，システムセキュリティ，セキュリティと社会，ネットワークセキュリティ，危機管理とリスク管理，セキュリティ基盤技術，機械学習・マイニング，といった広範囲な分野からバランスよく論文が採録された．

さらに編集委員会は招待論文を企画し，佐々木良一先生（東京電機大学）に IT リスク学の最新動向について，星野伸明先生（金沢大学）にプライバシー保護研究における攻撃者モデルについてご執筆いただいた．なお星野先生の論文は IWSEC2013（The 8th International Workshop on Security）のご講演が契機となっている．本特集号が，今後のコンピュータセキュリティ研究活動や技術の発展に寄与できれば幸いである．

本特集号編集にあたり，限られた時間の中で，多岐にわたる投稿について質の高い査読と議論を行い，予定どおり発行することができたのは，編集委員，査読者，招待論文執筆者，学会関係者の方々の多大なご尽力のおかげであり，厚く御礼を申し上げたい．特に，岡本健幹事（筑波技術大学），大久保隆夫幹事（情報セキュリティ大学院大学）には，とりまとめの中心となって献身的に運営を行っていただいた．心からの感謝を申し上げる．

「新しいリスクに対応するコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会

- 編集長
  小川隆一（日本電気）
- 幹事
  岡本　健（筑波技術大学），大久保隆夫（情報セキュリティ大学院大学）
- 編集委員（五十音順）
  岩村惠市（東京理科大学），越前　功（情報学研究所），大東俊博（広島大学），岡本栄司（筑波大学），加藤岳久（情報処理推進機構），菊池浩明（明治大学），齋藤孝道（明治大学），佐々木良一（東京電機大学），須賀祐治（IIJ），鈴木幸太郎（NTT），高木　剛（九州大学），高倉弘喜（名古屋大学），竹森敬祐（KDDI 研究所），田中　清（信州大学），千田浩司（NTT），手塚　悟（東京工科大学），寺田真敏（日立製作所），寺田雅之（NTT ドコモ），土井　洋（情報セキュリティ大学院大学），鳥居　悟（富士通研究所），中西　透（広島大学），西垣正勝（静岡大学），朴　美娘（神奈川工科大学），本郷節之（北海道科学大学），松浦幹太（東京大学），満保雅浩（金沢大学），宮地充子（北陸先端科学技術大学院大学），村山優子（岩手県立大学），毛利公一（立命館大学），盛合志帆（情報通信研究機構），山内利宏（岡山大学），吉浦　裕（電気通信大学），吉岡克成（横浜国立大学），渡邊裕治（日本 IBM）

[1] 日本電気株式会社
NEC Corporation, Kawasaki, Kanagawa 211–8666, Japan
[a)] r-ogawa@bq.jp.nec.com